

△川内原子力発電所全景

川内原子力1号機(89万kW)運開

九州電力川内原子力発電所(鹿児島県川内市久見崎町)の1号機は、昭和53年5月敷地造成等の準備工事に着手、54年1月原子炉基礎掘削工事開始「着工」以来鋭意工事が進められていたが、59年7月4日めでたく営業運転が開始され、全国で27番目、九州では玄海原子力1・2号機につぐ3番目の原子力発電設備が誕生した。

当社では、この1号機建設工事に当たり、53年9月1日に川内原

子力建設所を開設し、電気、機械関係の準備工事に着手した。建設所開設当初、広大な敷地(約44万坪、甲子園球場の約36倍)の中には、人、車、機械もまばらで閑散とした状況で、当社の陣容も所長以下10名足らずであったが、54年1月の「着工」を境に急速に建設工事の息吹きが高まり、土木建築関係工事が順調に進められた。

当社としても、埋設構造物設定等の先行工事に着手し、56年3月

には当社初の1次系据付工事(原子炉補助建屋内機器、配管設備据付他工事)に着手、同年9月、11月に1・2次系電機品据付配線工事及びタービン・発電機据付の本工事に逐次着手した。57年1月には原子炉計装工事に着手するなど、建設工事は、最盛期を迎え、同年下期には最大1100名の当社要員が1・2号機の建設工事に従事した。

以上のように、工事施工範囲、要員とも最大規模の建設工事も、

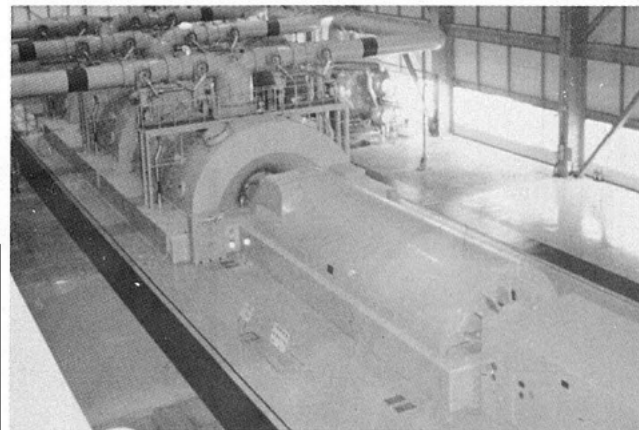
58年4月には諸設備の据付工事が終了し、同年8月初臨界、9月初併列、以後負荷上昇試運転を経て、今回の営業運転開始の運びとなった。

1号機建設着手以来、工事従事者全ての人達の大変な苦勞の積み重ねで運開に至ったのであるが、この建設工事施工に当たって最重点に推進した事項は、当社伝統の「誠実な施工」をモットーとした工事従事者末端に至るまでの品質管理要領の徹底、安全パトロールの強化や危険予知活動を柱とした安全の推進ならびに建設従事者の日常生活指導や交通事故防止を主眼とした労務管理の強化である。また、従来にない大規模でしかも長期間にわたる建設工事であるため、時には活力を養うため、工事の合間を利用して行った各職場毎のレクリエーションや所内大運動会

等は、所員一同にとって格好の気分一新の場となり、職場の和づくりに対する所員の熱意がみられた。また、地元の体育祭等に若人達が積極的に参加し地元の人達との交流をはかっているが、今後の当社のイメージアップに役立つものと期待される。

この建設工事に従事した人達全てが、立派な原子力発電所をつくることを目標に、前述の最重点推進事項を真剣に受けとめ実行してきたことが、1号機運開という輝かしい成果につながったことを思うとき、この喜びの気持ちを更に引き締めて、現在最盛期の2号機建設工事に全力を注ぎ、客先からますます信頼していただくよう頑張りたいと所員一同誓を新たにしている。

(川内原・建 中村所代)



◁運開した1号機タービン・発電機